

様式第2（第5条関係）

令和2・3年度期第10回犬山市青少年問題協議会・犬山市青少年センター 運営協議会 会議録

- 1 附属機関の名称 犬山市青少年問題協議会及び犬山市青少年センター運営協議会
- 2 開催日時 令和3年12月20日(月)午前10時～午前11時30分
- 3 開催場所 犬山市役所 201会議室

4 出席者した者の氏名

- (1) 委員：佐々由高、板津克哉、畑竜介、渡辺孝春、田島奈生美、深見公子、近藤友貴、
沖藤妙子、南谷亜紀（9名／11名中）
- (2) 執行機関：文化スポーツ課 青少年センター所長梅村淳、同所相談員角村利恵

5 議題

- (1) 第4回犬山市青少年健全育成市民会議の報告
- (2) 困難を抱えた子ども若者支援のための研修会
- (3) アンケート結果から分かること研修会
- (4) 令和2年度令和3年度期協議の報告書について
- (5) 令和2年度令和3年度期協議の報告会について
- (6) 青少年センターの街頭補導について
- (7) 次年度の委員交代について
- (8) 3分間スピーチ
- (9) その他

6 傍聴人の数 0人

7 内容

(1) 会長あいさつ

- ・今年 最後の会です。まとめに入っていくのでよろしくお願いします。

(2) 報告事項

①第4回犬山市青少年健全育成市民会議の報告（深見委員）

- ・会議録を基に深見委員が報告した。主な内容は「おあしす」42号の最終検討と今後の「犬山おあしす（あいさつ）運動」の予定についてであった。

(3) 協議

①アンケート結果「性教育について」から分かること

- ・「包括的性教育」の認知度をはかるため、事務局が犬山扶桑地区生徒指導担当者会でアンケート調査を行った。「包括的性教育」「LGBT」「トランスジェンダー」「ジェンダー平等」「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」の認知度を調査し、また各校の性教育について記述を求めた。
- ・結果、「包括的性教育」「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」については認知度がかなり低いことが、また「LGBT」「トランスジェンダー」「ジェンダー平等」については認知度が高いことが分かった。
- ・これらに関連した授業を行っているのは、中学校 4校／7校（校則見直しに取り入れていると回答した学校が +1校）、高校 2校／3校 であった。

【感想・意見交流の概要】

- ・「言葉」の制限で追っていくと、発言したら「差別」が発生しそう。長年の男女意識があるので、「男」「女」と口にしながらも、ゆっくりと進めていくべきものだろう。
- ・アンケートにあるキーワードを、我々委員も十分に理解しているわけではない。

- ・多くの人が知らない言葉を「キーワード」として提言していくのなら、これからの良い情報提示となる。
- ・国全体の取組が遅れている。高齢者の拒否感覚も否めない。教師もまだ情報不足だ。
- ・学校の先生が、気をつけて発言していることがよく分かる。しかし、今はまだ「禁止語句」として扱って、口から出たら「非難」されるべき段階ではない。口から出た言葉が検討材料となって意識化されていくべきだ。
- ・これらの意識をもって校則の見直しを行っている学校は、規則に落とし込むことで身近になって良いと思う。ただし、その内容が、ずっと正しいとは限らない。国際的な変化に柔軟に対応したい。
- ・社会では、性別を問うたり、配偶者について尋ねたりすることもタブー化し始めている。
- ・テレビドラマの題材にもなっている。「いろんな人がいる」ということが分かって、子どもたちが成長してくれば良い。成長する中で、自分で選択する力もつけさせていきたい。
- ・低学年の頃から「性」について触れていくことが望まれる。特に「LGBT」「トランスジェンダー」の存在を知らせるべきである。抽象的な「言葉」による指導ではなく、当事者との接触などを実現し、現実感を伴った認識を進めたい。
- ・これらの課題は、学校教育だけのものではない。家庭教育、社会教育として、どう取り組んでいくかを検討していく必要を感じる。
- ・「性教育」については、どうしてもわたしたち大人は固定概念から抜け出せない。若い人の意見を聞いたり、青少年の目線から検討したりして、「始め方」「進め方」を考えていきたい。

②令和2年度3年度期協議の報告書について

ア報告書の原稿執筆について

- ・全委員が執筆するよう分担。

イ提言内容

- ・執筆委員と事務局で整理する。

③令和2年度3年度協議のまとめ報告会について

- ・日時、会場の確認

④青少年センターの街頭補導について（冬季県民運動）

- ・本年度も、新型コロナウイルス感染症対策で活動は縮小。
- ・12/24にセンター員で犬山駅周辺のパトロールを実施予定。

⑤次年度の委員交代について

- ・できれば継続で進めたい。交代があれば事務局まで連絡が欲しい。

(4) 3分間スピーチ(近藤委員)

○老後 2000万円問題の対策

①株式投資 年40万円非課税を利用。

年60万円(月5万円)の老後貯蓄。これを年5%運用で、30~60歳の30年間でためる。

②収入確保のため、副業をもつ。本業継続のため、負担の少ない「ストック型」の副業を設定。

③マンション、戸建てなどを「資産」として捉えない。家屋は消費物であり、経年価格は下落するので、資産として捉えない。

8 その他

(1) 次回の3分間スピーチについて (沖藤委員)

(2) 本会議の青少年健全育成市民会議での報告者について (渡辺委員)

(3) その他

(4) 本会議の次回開催予定日は2月10日(木)午前10時からである。会場等は追って通知する。

令和4年 月 日

上記に相違ないことを確認する。

(署名)

(署名)
